

# 研究主題「家庭生活をよりよくするために、課題を設定し解決方法を考え 生活で実践する力の育成 －教科等横断的な視点を踏まえた家庭科の授業モデルの開発及び指導の 工夫を通して－」

東京都教職員研修センター研修部専門教育向上課  
大田区立都南小学校 主任教諭 神前 珠美

## 第1 研究のねらい

小学校学習指導要領（平成29年3月告示）によると、現代は予測が困難な時代であり、様々な変化に積極的に向き合い、主体的に考え、他者と協働して課題を解決する資質・能力を育成する必要があるとされている。家庭科においては、生活の利便性の向上、家族・家庭生活の多様化等に伴い、基本的生活習慣の乱れや生活体験の不足等様々な問題が指摘されており、急激に変化する社会に主体的に対応する力の育成が求められている。

全国学力・学習状況調査報告書（令和元年7月）によると、「授業で学んだことを、ほかの学習に生かしていますか。」との問いに対して、83%の児童が肯定的な回答をしている。しかし、文部科学省教育課程部会 家庭、技術・家庭ワーキンググループにおける審議の取りまとめ（平成28年8月）では、「家族の一員として協力することへの関心が低く、家庭での実践や社会に参画することが十分ではない。」と報告されており、授業で学んだことを生かして生活で実践する力を育成することが必要であると考えた。

そこで本研究では、「生活で実践する力」を「家庭生活をよりよくするために、各教科等での学習を通して身に付けた知識及び技能を適切に生かして判断し、実践することができる力」と定義し、「生活で実践する力」を育成するために以下の3点の手だてを行う必要があると考えた。第一に、教科等横断的な視点を踏まえた題材の指導計画及び授業モデルの開発である。第二に、生活から問題を見いだして課題を設定し、解決方法を検討するための指導方法の工夫である。第三に、家庭実践につなげる教材・教具の活用例の考案である。このような開発研究を通し、「生活で実践する力」を育成することをねらいとして、本研究を進めることとした。

## 第2 研究仮説

教科等横断的な視点から他教科等の学習内容と関連付けた題材を計画し、課題解決を図る学習過程における指導方法や教材・教具を工夫すれば、家庭生活をよりよくするために生活で実践する力が養われるだろう。

## 第3 研究の内容と方法

### 1 基礎研究

- (1) 国や東京都の学力調査から、家庭での実践における児童の実態を把握した。
- (2) 「生活で実践する力」を育成するための年間指導計画及び授業モデルの作成に向け、各教科等において育成を目指す資質・能力及び学習内容との関係を整理した。

### 2 調査研究

#### (1) 調査内容

令和3年7月に、都内公立小学校1校の第5学年及び第6学年に在籍する児童125名を対象に、家庭科の既習事項を生かした家庭での実践に関する意識を調査した。また、都内公立小学

校3校に所属する教員 54 名を対象に、教科等横断的な視点を踏まえた指導に関する意識及び実践したことを評価・改善する学習活動の実施状況の調査を行った。

## (2) 調査結果

### ア 児童対象の質問紙の調査結果

「家庭科で学習したことを生かして家庭で実践しようと思うか。」との問いに 88.8%の児童が肯定的な回答をしていた。(図1) また、既習事項を生かして家庭で実践している頻度について、「月に1回以下である」、「実践していない」との回答が半数を超える題材もあった。(図2)

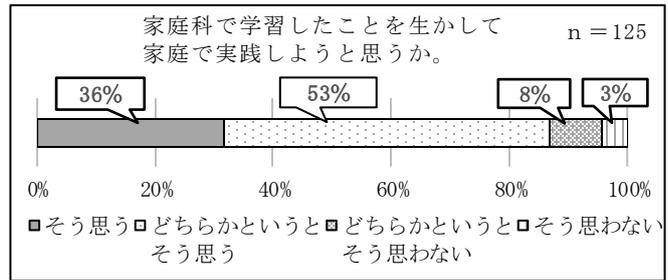


図1 家庭科の既習事項を生かした家庭での実践に関する児童の意識

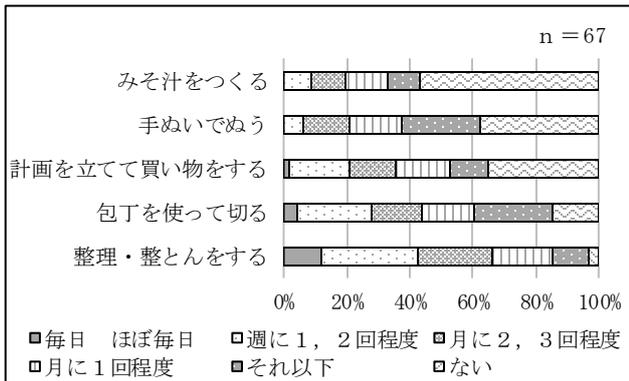


図2 家庭科の既習事項を家庭で実践している頻度

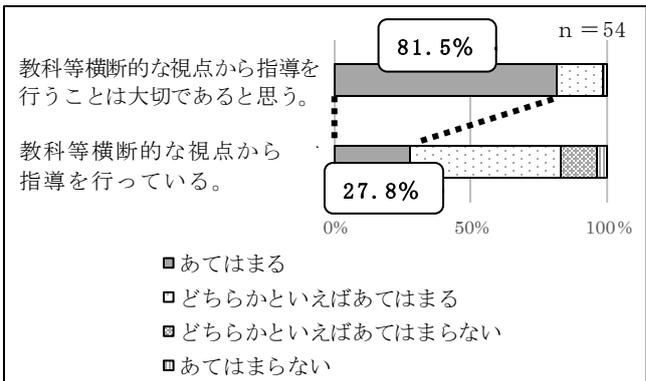


図3 教科等横断的な指導に関する教員の意識

### イ 教員対象の質問紙の調査結果

教科等横断的な視点を踏まえた指導を行うことは大切であると思うものの、十分な指導に至っていないと考える教員が多かった。(図3) また、実践したことを評価・改善する学習活動を実施している教員は 24.1%であった。

## 3 開発研究

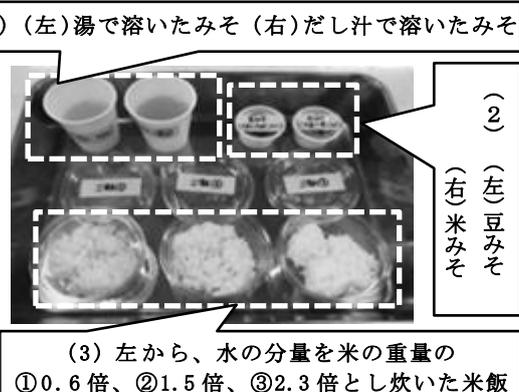
「生活で実践する力」を育成するために3点の手だてを行った。

### (1) 教科等横断的な視点を踏まえた指導の充実

「生活で実践する力」を育成するための年間指導計画及び国語科、社会科及び特別の教科道徳の学習内容を関連付けた授業モデルを作成し、課題の解決に向け各教科等での学習を通して身に付けた基礎的な知識及び技能を活用することができるよう関連を意図的に想起させた。

### (2) 学習課題の設定や解決方法の検討を行う過程における指導方法の工夫

学習課題を設定する場面では、授業開始前の児童の意識を確認する事前アンケートや、児童が家庭へとインタビューする活動、ご飯やみそ汁の観察を通して、児童がおいしいご飯とみそ汁の調理の仕方に関する問題を見だし課題を設定することができるようにした。



(3) 左から、水の分量を米の重量の  
 ①0.6倍、②1.5倍、③2.3倍とし炊いた米飯

図4 問題を見出すための提示資料

(図4) 解決方法の検討を行う場面では、生活の営みに係る見方・考え方の視点から調理計画を考えるとともに、「おいしく調理するための工夫」を具体的に考えられるようにした。

「家庭生活をよりよくするために、課題を設定し解決方法を考え生活で実践する力の育成  
 —教科等横断的な視点を踏まえた家庭科の授業モデルの開発及び指導の工夫を通して—

### (3) 実践したことを評価・改善する学習活動の充実

一人1台端末及び学習クラウドサービスを活用し、児童が家庭で実践した様子を見合うことができるようにした。(図5) また、児童が課題解決に至るまでに習得すべき知識及び技能と、改善策を検討する流れを可視化する学習シートを作成し、学習過程を見渡すことができるようにした。(図6)



図5 一人1台端末及び学習クラウドサービスを活用した、家庭で実践した様子の報告



図6 学習シートの構成

## 4 検証授業 (令和3年11月実施)

都内公立小学校にて第5学年家庭科「おいしく食べて元気に」(全9時間)を実施した。

### (1) 教科等横断的な視点を踏まえた指導の有効性

検証授業後に児童を対象に実施したアンケートの結果から、59.6%の児童が他教科等の学習を通して身に付けた基礎的な知識等を活用して課題解決を図ることができたと回答した。「みそ汁の実を考えると、社会で学習した地産地消の大切さを生かし、地域の食材を使った。」「算数の学習でグラムなど重さの感覚が分かっていたので作りやすかった。」等の記述から、他教科等で学習したことを生かしている姿が見られた。

### (2) 学習課題の設定や解決方法の検討を行う過程における指導方法の工夫の有効性

学習課題を設定する場面では、家庭へのインタビュー活動やご飯やみそ汁の観察を実施し、おいしいご飯とみそ汁の調理方法に関する問題に向き合うことができるようにしたことで、87.7%の児童が個人の課題を設定することができた。(表1) また、解決方法の検討を行う際には、「協力する・助け合う」「健康・安全」「伝統・文化」「持続可能な社会」の4点を考える視点として明示し、調理の流れと具体的な方法を同時に考えさせることで、87.9%の児童が「おいしく調理するための工夫」を考えることができた。(表2)

表1 児童が見いだした問題と、問題を基に設定した個人の課題

	おいしく調理するために見いだした問題	児童が設定した個人の課題
ご飯	・①はバサバサ、③はべちゃべちゃしている	→ ちょうどよい水の量はどのくらいか
	・家の人が、吸水やむらしをずっと言っていた	→ 吸水やむらしの効果はどのようなものか
	・③は米がつぶれている。とぎ方の違いかな	→ 米のとぎ方、力加減はどのくらいか
みそ汁	・みその量は同じでも、だしで溶いた方が香りを強く感じる	→ だしは必要か。だしは何を使いどうとるのか
	・みその種類によって香りが違う	→ どうすればみその香りをを感じるみそ汁になるのか

### (3) 実践したことを評価・改善する学習活動の有効性

家庭で実践した様子の報告データや改善策を検討する流れを可視化する学習シートを活用することで、92.2%の児童が「味見をすることでみその濃さが分かり、味を調節できた。」「吸水させることでふっくらして、おいしさを決める大切な工程だと実感した。」等、家庭で実践

した様子を振り返り、自分で考えた「おいしく調理するための工夫」を評価することができた。また、一人1台端末を活用し画面を共有しながら実践報告を行う中で、互いの実践や工夫に興味をもち、活発に意見を交流している様子が見られた。題材の学習後の学習シートには、96.6%の児童が「学習したことを生かして家でも作ってみたい。」と家庭で実践することに対して意欲的な記述をした。その中の26%の児童は「どのようなご飯とみそ汁を作りたいか」、「どのような工夫をしたいか」等について、身に付けた知識及び技能を活用して自らが家庭で実践する姿を具体的に想起して記述した。(表3)

表2 「協力する・助け合う」「健康・安全」「伝統・文化」「持続可能な社会」の4点から児童が考えた、「おいしく調理するための工夫」

<b>協力する・助け合う</b>	<b>健康・安全</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・分からないことは家族に聞き、教えてもらう</li> <li>・家族の好みを聞き、実の組み合わせを決める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旬の食材を使う</li> <li>・五大栄養素を意識して実を組み合わせる</li> <li>・火が通ったか確認する</li> </ul>
<b>伝統・文化</b>	<b>持続可能な社会</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の特産品を使う</li> <li>・郷土料理について調べる</li> <li>・手作りのみそや地域の特徴あるみそを使う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野菜の皮や葉も使う</li> <li>・だしをとったあとの煮干しを実として食べる</li> <li>・計画を立て買い物に行く</li> </ul>

表3 「生活で実践する力」の高まりが見られた児童の記述例

これからは、 <u>だしを変えたりちがう実にしたりして、家族が「おいしい」と言ってくれるご飯とみそ汁を作りたい。</u>
この学習を生かして、 <u>自分でご飯をたき、みそ汁をつくることを、毎週、親への感謝を込めてやりたい</u> と思った。
<u>食感や色味を考えたり、五大栄養素を考えたりしていろいろな実の味わいを楽しみ、あきないようにしたい。</u>

#### 第4 研究の成果

##### (1) 教科等横断的な視点を踏まえた指導における、学びを生かそうとする意識の高揚

他教科等との関連を意図的に想起させる指導を通し、授業モデルに関連を示した知識等の他にも他教科等の学習を通して身に付けた知識等を児童が適切に判断し活用しながら課題解決を図った姿が見られ、学びを生かそうとする意識の高揚につながった。

##### (2) 課題解決の学習過程における指導方法の工夫を通じた、課題解決への意欲の向上

児童が自分の生活を振り返りながら生活の中にある問題を見いだすことができるよう指導の工夫を行うことで、課題を自分事として受け止めることができ、児童の「おいしいご飯とみそ汁を作るために課題を解決したい。」という意欲を高めることにつながった。

##### (3) 評価・改善における教材・教具の工夫を通じた、実践する楽しさや喜びの享受

「おいしく調理するための工夫」を記録した報告データを基に、友達と画面を共有しながら家庭での実践報告を行うことで、互いの実践や工夫に興味をもって活発に意見を交流し、家庭で実践する楽しさや喜びを感じている姿が見られた。

#### 第5 今後の課題

##### (1) 他教科等との関連を意識させる指導の充実

各題材の学習後に、今回学習した内容と他教科等での学びがどのように関連しているか児童に問い掛け、他教科等との関連を意識させる指導方法を充実させていく必要がある。

##### (2) 授業での学びを家庭での実践につなげる指導方法の充実

他の題材においても、自分の生活の中から問題を見だして課題を設定し解決を図る指導方法を充実させていく必要がある。また、「内容A(4)家族・家庭生活についての課題と実践」との関連を図り、授業での学びと家庭での実践を結び付けていく。

##### (3) 評価・改善する学習活動を充実させるための教材・教具の活用方法の検討

2学年間の各題材において、見方・考え方を働かせて家庭での実践を評価・改善する学習活動を充実させるために、教材・教具等の有効な活用方法について検討していく必要がある。